



知的財産戦略ビジョン 知的財産推進計画2018 について

(知財創造教育推進コンソーシアム推進委員会 (第3回) 説明資料)

2019年2月20日

内閣府 知的財産戦略推進事務局

1. 新たな知財戦略ビジョン策定の背景

2003年 知的財産基本法に基づく知的財産戦略本部 設置

→ 毎年の「知的財産推進計画」に基づく政府一体の知財戦略の推進

「知的創造サイクル」の基盤確立による「知財立国」の推進

- 特許審査体制の強化(世界最速審査達成等)
- 紛争処理機能の強化(知財高裁設立等)
- 営業秘密の保護強化
- 中小・ベンチャー企業への知財活用支援強化
- 国際標準化戦略の強化
- 産学連携機能の強化
- 模倣品・海賊版対策の強化

2013年 「知的財産政策ビジョン」策定

2012年 クールジャパン担当大臣設置

近年進む大きな社会変革

イノベーションの変質(供給主導から需要主導へ)

人々の価値観の変化(モノよりコト、共感、シェア)

データ、人工知能、IoT等の技術的進展

少子高齢化、環境エネルギー等の社会課題

国際情勢の変化(米中の存在感拡大、グローバルなプラットフォーム企業の台頭)

Society5.0実現

SDGs

✓ 知的財産のあり方は「独占」「交換」「保護」から「共有」による利活用拡大へ

✓ 毎年の推進計画の見直しのみではなく、中長期のビジョンを政府全体で共有し、将来社会に必要なシステム設計を行う必要

2025～2030年頃を見据えた新たな知財戦略ビジョンの検討

→「知的財産推進計画」による実行 1

「知的財産戦略ビジョン」の検討体制と経緯

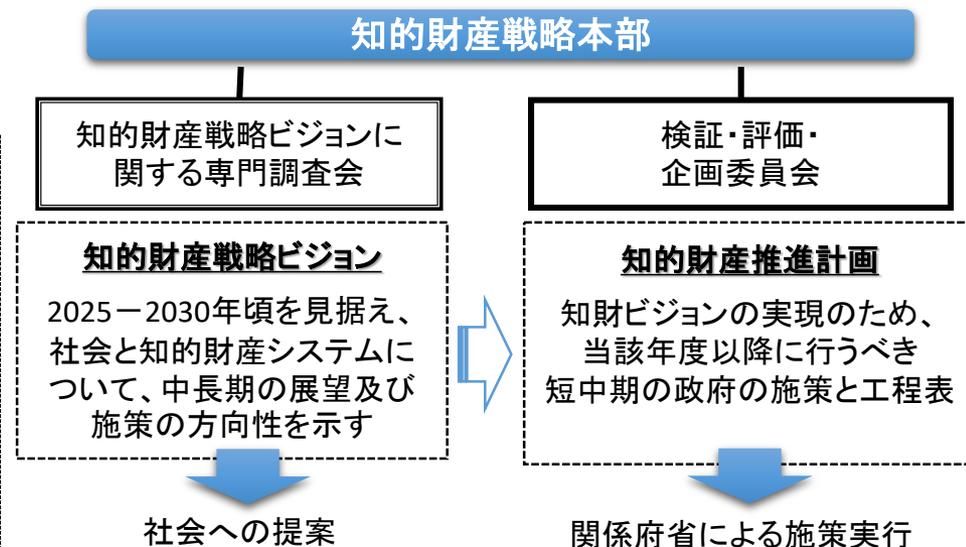
参考1

【知的財産戦略ビジョンに関する専門調査会 構成員】

※敬称略

氏名	所属
安宅 和人	ヤフー株式会社CSO
池田 祥護	学校法人新潟総合学院理事長 日本青年会議所2018年度会頭
梅澤 高明	ATカーニー 日本法人会長
落合 陽一	筑波大学学長補佐・准教授
富山 和彦	株式会社経営共創基盤 代表取締役CEO
川上 量生	カドカワ(株)代表取締役社長
妹尾 堅一郎	産学連携推進機構 理事長
中村 伊知哉	慶応義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授
日覺 昭廣	東レ(株) 代表取締役社長 日本経済団体連合会知的財産委員長
林 千晶	株式会社ロフトワーク 共同創業者、 代表取締役
原山 優子	前 総合科学技術・イノベーション会議 議員
渡部 俊也	東京大学政策ビジョン研究センター 教授

【知的財産戦略ビジョンと知的財産推進計画の関係】

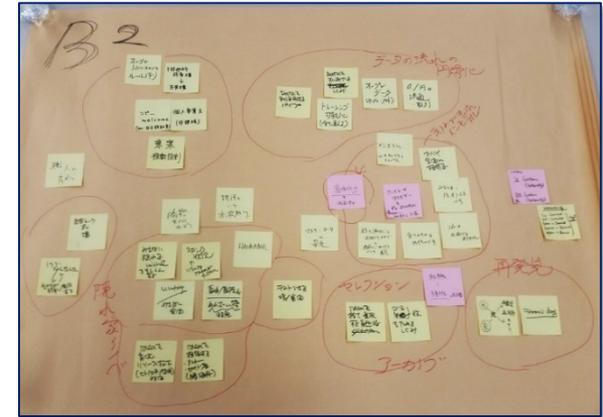
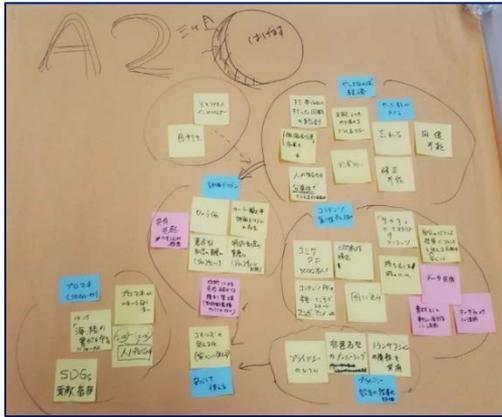


【開催実績】

- 第1回専門調査会合 2017年12月26日
 - ・未来の社会像について
- 第2回専門調査会合 2018年2月2日
 - ・未来の社会像における「価値」とそれを実現するための「仕組み」について
- 第3回専門調査会合 2018年3月1日
 - ・クールジャパン戦略による日本ブランドの強化について
 - ・将来の知的資産システムの在り方について
- 第4回専門調査会合 2018年3月23日
 - ・知的財産戦略ビジョンの実現のための全体的な枠組及び個別システムについて
- 第5回専門調査会合 2018年4月20日
 - ・「知的財産戦略ビジョン」素案について
- 第6回専門調査会合 2018年4月25日
 - ・「知的財産戦略ビジョン」素案及び今後の進め方について

知的財産戦略ビジョンの検討の様様

委員をグループに分け、ポストイットを利用して討議し、全体で発表・議論する「グループディスカッション形式」を採用し、「チャタムハウスルール」(*)の下、活発な議論を行った
(*)会議における発言を引用する場合は発言者が特定されないようにするというルールを参加者間で共有し、自由闊達な議論を確保。



2. 「知的財産戦略ビジョン」の構成

現在

2025

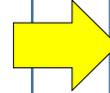
ターゲット未来

2030

1. 将来につながる現在の環境変化や兆候

- ・供給サイド経済から需要サイド経済へ
- ・技術進展 (IoT、ビッグデータ、人工知能など)
- ・情報発信やモノ・コンテンツづくりの主体の広がり
- ・シェアリングエコノミー、「コト消費」や「共感」(いいね!)
- ・少子高齢化、人生100年時代

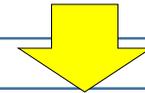
…など



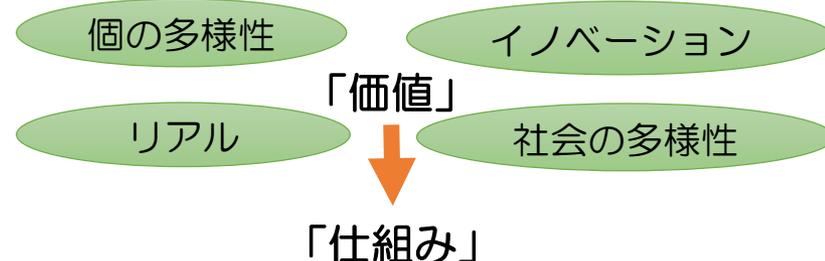
2. 予測される将来の社会像

- ・AI・デジタルの進展→「リアル」の価値向上
- ・生き方・働き方の多様性・選択肢の拡大
- ・会社など組織への所属の柔軟化
- ・幸せの多様化、新しい価値感 (シェア、貢献)

…など



3. 将来における「価値」とそれを生む「仕組み」

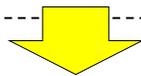
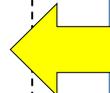


- 多様な個性を生み出す仕組み
- 多様な個人が活躍する環境整備
- 知識のプラットフォーム化
- 多様な価値を内包する社会システム

4. 日本の特徴

- ・バランス感覚 (例: 三方よし)
- ・先端技術の社会受容
- ・新たなものを受け入れての編集能力
- ・均質性 (抜本的な見直しが必要)

…など



5. 将来の「仕組み」に向けた検討課題

目指すべき社会の姿

＝「価値デザイン社会」

3. 目指すべき「ビジョン」と今後の検討方向性

「価値デザイン社会」への挑戦 ～ 夢×技術×デザイン=未来 ～

－ 価値デザイン社会 －

経済的価値にとどまらない多様な価値が包摂され、そこで多様な個性が多面的能力をフルに発揮しながら、「日本の特徴」をもうまく活用し、様々な新しい価値を作って発信し、世界の共感を得る

① 脱・平均とチャレンジ

尖った人、チャレンジする人や組織が我が国から生まれるとともに、世界から集まる

② 分散と融合

個人が有する複数の能力を、プラットフォームを通じて他人の能力と適切に組み合わせ、新しい価値を生む

③ 共感・貢献経済

日本の社会、文化、方向性に共感を持つ海外の理解者、「ファン」を積極的に受け入れる

個々の主体の強化

(1) チャレンジする人・組織

新たな価値創造を行える人材の育成

価値創出プロセスの「見える化」を通じた組織経営

ベンチャーを後押しする仕組み

組み合わせの仕組み

(2) 知的資産の柔軟な交流・共有による価値拡大

多様な人材・組織が集う場の形成

SDGs等実現のための知的資産プラットフォーム

次世代のコンテンツ創造・活用システムの構築

国全体のブランド強化

(3) 世界に共有される価値・感性

クールジャパンの魅力分析・効果的発信

クールジャパンを支える外国人等の集積・活用

等

具体的なシステムの例

4. 「知的財産戦略ビジョン」における人材育成に関する議論

1. 知的財産戦略ビジョン策定(2018年6月)

創造性、デザイン力、数理リテラシー、芸術的素養等を初等中等教育の段階から育むとともに、これらをビジネスの現場で実践できる力を大学生や社会人が身に付けられる環境を整備する。

- 全国各地で初等教育段階から創造性を育む教育が行われるようにするため、各地域における体制整備を行うとともに、必要な教材の収集・作成や、教職員に対する教育、成功事例の発信等を行う。
- 大学生や社会人が社会の求める創作を行えるようにするため、大学等において文理芸一体となった学びができるようにするとともに、創作されたものを組み合わせることで新たな価値を生み出すことができる人材を育成する。

2. 知的財産戦略ビジョン第10回専門調査会合(2018年12月)

以下のような意見が出され、尖った人をサポートことも重視されてきている。

- 尖った人をリスペクトする仕組みが必要。
- 新たな価値を創造する尖った人やチャレンジする人を見つけ・増やし・育てることが重要。

5. 「知的財産推進計画2018」のポイント

～ 旧ビジョンの成果を起点に、**プロイノベーション戦略**の考え方を軸として、
 新たな知財戦略ビジョン(**価値デザイン社会**)の実現へ ～

考慮すべき社会状況の進展

Society5.0の取組加速
SDGs実現に向けた機運醸成

ブロックチェーン、量子コンピューティングなど新技術の社会展開

訪日外国人の増加
外国人の定住化の広がり

重点事項

1. **人・ビジネス**
を育てる

2. **挑戦・創造活動**
を促す

3. **新たな分野**の仕組み
をデザインする

産業競争力コンテンツ・クールジャパン

①知財のビジネス上の価値評価
・価値評価TFで示された経営デザインシート等の考え方を統合報告、知的資産経営報告書、ローカルベンチマーク等へ導入

②デザイン経営によるイノベーション創出及びブランド構築の促進
・意匠制度の見直し検討、デザイン経営の事例普及

③地方・中小企業・農業分野の知財戦略強化支援
・特許料等の減免申請手続き簡素化の検討
・植物品種の海外流出防止に向けた方策の検討

④知財創造教育・知財人材育成の推進

⑤クールジャパン人材の育成・集積に係る取組
・外国人材受入れに係る産官学の協力体制構築、地域の魅力を発掘・編集・展開できる人材の育成

⑥地方のクールジャパン資源の発掘・創出・展開

①オープンイノベーションの加速
・知財上の課題について整理、対応策の検討
・SDGs等知的資産プラットフォームの検討

②ベンチャー支援
・ベンチャー向け知財ハンズオン支援
・ベンチャー関係者と知財関係者との出会いの場の形成

③コンテンツの持続的なクリエイション・エコシステムの確立
・ブロックチェーン技術を活用した著作物の管理・利益配分の仕組みの検討

④模倣品・海賊版対策の強化
・インターネット上の海賊版サイト対策強化に向けた制度整備を含む総合的検討

①ビジネスモデルを意識した標準、規制等のルールデザイン

②知財システム基盤の強化
・審査体制やAI技術活用体制の充実

③データ・AI等新たな情報財の知財戦略強化

④デジタル化・ネットワーク化の進展に対応した著作権システムの構築
・改正著作権法の運用環境の整備
・権利情報集約化データベースの整備等

⑤クールジャパン戦略の持続的強化
・日本の魅力のストーリー化による付加価値向上、国別戦略の深化と活用

⑥ロケ撮影の環境改善

⑦デジタルアーカイブ社会の実現

知財創造教育・知財人材育成の推進

1. 現状と課題

イノベーション創出のためには、新しいものを創造する人材や、創造されたものを活用したり組み合わせたりして新しい価値を生み出す仕組みをデザインできる人材が必要。そのためには、「知財創造教育推進コンソーシアム」における検討結果を活用しながら、知財創造教育を一層教育現場に浸透させていくことが必要。

2. 施策の方向性

- 教育現場に知財創造教育を浸透させるための取組を推進(教材収集、小中学校における知財創造教育の実証、高等学校における知財創造教育の体系化、知財創造教育の成功事例の発信等)
- 地域において知財創造教育を推進する体制(地域コンソーシアム)の拡充
- 教職員および教職員を目指す学生向けの教材の作成

参考： 知財創造教育・知財人材育成の推進（本文）

（現状と課題）

イノベーションの創出のためには、新しいものを創造する人材や、創造されたものを活用したり他の様々なものと組み合わせたりして、新しい価値を生み出す仕組みをデザインできる人材が必要である。

2017年1月に設置された「知財創造教育推進コンソーシアム」では、「新しい創造をする」こと、「創造されたものを尊重する」ことを理解させ、育むことを柱とする「知財創造教育」を推進するための取組を行っており、2017年3月に公示された学習指導要領において、創造性の涵養を目指した教育を充実させていくことが示されたことを踏まえ、2017年度は、知財創造教育を学校教育の中に取り入れやすくするよう、知財創造教育と新学習指導要領との対応関係等を整理することを通じて、小中学校における知財創造教育の体系化を行った。また、知財創造教育を地域において実施するための体制構築に関する調査を行ったところである。

今後は、知財創造教育を一層教育現場に浸透させるための取組を行うとともに、高等学校における知財創造教育の体系化や、現場の教職員が知財創造教育を実践できるようにするための支援方策について検討することが求められる。

（施策の方向性）

- ・知財創造教育を実施するための教材の収集、小中学校における知財創造教育の実証、高等学校における知財創造教育の体系化、知財創造教育の成功事例の発信等を通じ、教育現場に知財創造教育を浸透させるための取組を推進する。(短期、中期)(内閣府)

- ・地域において知財創造教育を推進する体制(地域コンソーシアム)の拡充について検討する。(短期、中期)(内閣府)

- ・創造性の涵養及び知的財産の意義の理解等に向けて、小中高等学校において、発達の段階に応じた知的財産に関する教育が行われるよう、新学習指導要領の趣旨の徹底を図る。(短期、中期)(文部科学省)

- ・教育現場の教職員が知財創造教育の必要性を理解し、自ら知財創造教育を実施できるようにするため、教職員および教職員を目指す学生向けの教材を作成する。(短期、中期)(内閣府、経済産業省)